

平成30年度

第4回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録  
(平成31年2月 第四回)

- 1 日 付 平成31年2月16日(土)
- 2 場 所 杉久保小学校 体育館
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康  
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘  
教育委員 平井 照江
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎  
(総務・社会教育担当)  
教育部次長 小宮 洋子 教育部次長 伊藤 修  
(学校教育担当) (財務・法制担当)  
参事兼教育総務 中込 紀美子 就学支援課長兼 小林 丈記  
課長 指導主事  
教育支援課長兼 和田 修二 教育支援課教育 麻生 仁  
指導主事 支援担当課長  
学び支援課長兼 小林 誠  
若者支援室長事務取扱
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項
- (1) 次期教育大綱について
  - (2) 市内小中学校の校外活動の状況について
  - (3) 中学校給食について
  - (4) 海西中学校生徒からの学校生活に関する提案について
- 7 閉会時刻 午前11時50分

○**教育部長** ただいまより、平成30年度第4回海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日司会を務めます、教育部長の岡田と申します。よろしくお願いいたします。

なお、進行につきましては、本日お配りしております、次第により進めさせていただきます。はじめに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。

それでは、内野市長、お願いします。

○**市長** おはようございます。平成30年度第4回目の総合教育会議であります。教育委員の皆さま、また傍聴されている皆さま、学校関係者の皆さま、よろしくお願いいたします。本日の議題でありますように、最終年度となりました海老名市教育大綱について、本年度の総合教育会議の中で議論してまいりました。新しい教育大綱策定について本日説明を行い、ご意見をお伺いします。海老名市内には学校が19校あります。市にある公共施設の半分くらいが学校施設です。改修に多くの費用がかかります。公共施設の改修等は各所管課で行っていましたが、今後は公共施設の改修等を計画的に進める部署をつくります。現場から話を聞いて改修をする。担当課で公共施設の管理を行うと、担当課による温度差があり、予算配分がうまくいかないこともあります。必要な改修が進められないこともありますから、建築士などの専門家が優先順位を決めて進めていくようにする。改修には何百億と費用がかかりますから税金を有効利用したいと考え、整備改修を計画的に進めたいと考えます。本日の総合教育会議の協議事項は4つあります。4つ目の海西中学校の生徒からの提案の時間を十分に作りますから、1から3の協議事項は15分程度で完了します。事務局からの簡潔な説明をお願いします。

○**教育部長** ありがとうございます。続きまして教育長お願いします。

○**教育長** おはようございます。総合教育会議は4年間実施してきて、トータル19回目です。本当は20回ですけれども、今年度台風で一度中止しています。始まってすぐ実施したのは海老名市くらいです。これは市長の意向でして、そのようにしたほうが良いということで実施しています。教育委員会は閉鎖的で、教育を見直したりするには時間がかかります。今でもその傾向はあるのですけれども、よりよいものにするためにこのような場で市長と教育委員が協議する。市長から皆さんにご意見をお伺いしたり、学校長の意見をお伺いすることもあります。このような中で海老名市の教育をよりよいものにしていく大切な場ですのでよろしくお願いいたします。今年度4年間の教育大綱を見直し、次年度は新しいものになります。4年間で海老名市はどのような教育を展開するのか、具体的に出てきます。また、2年前から子どもたちは自分たちの教育をどのように考えているの

だろうということで、今日は海西中学校の生徒が提案します。それを私たちは真摯に受け止めていきたいと思います。また、総合教育会議は次年度も続きますので、多くの方に来ていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

○**教育部長** ありがとうございます。では、協議に入る前に、総合教育会議について簡単に説明させていただきます。総合教育会議は、市長と教育委員会が連携し、教育大綱や教育の条件整備など重点的に講ずべき施策などについて協議調整をする場となっております。その結果、調整が図られれば、その結果を尊重することとなっております。なお、会議中、市長から保護者など傍聴者の皆さまに意見を求める場合もございます。時間も限られておりますので、発言の際は簡潔にお願いいたします。また、協議事項（４）につきましては、海西中学校生徒が「学校生活に関する提案」を発表し、市長・教育長と生徒４名が一緒になって協議いたしますので、ご承知おきください。それでは、次第３の協議に入りたいと思います。案件につきましては、お手元の次第のとおり、４件となっております。これより協議の進行につきましては、内野市長に議長をお願いしたいと思います。内野市長お願いいたします。

○**市長** それでは、協議事項の（１）「次期教育大綱について」を議題とします。はじめに、事務局より説明します。

○**教育部次長（総務・社会教育担当）** それでは、議題１の「次期教育大綱について」ご説明させていただきます。教育大綱とは、「市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的施策についての目標や施策の根本となる方針」で、その策定については、総合教育会議において、市長と教育委員が協議調整し、市長が策定するものです。海老名市では、全国に先駆けて平成27年４月に策定しております。次に、「海老名市教育大綱」についてでございます。海老名市教育大綱の「目標」は、『「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名』で、その実現のため、「子どもたちの今と将来のしあわせのための教育」と「子どもと大人がともに成長する社会」、そして「家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくり」に取り組むことを定めております。そして、「教育施策の３つの柱」として①「えびなっ子」しあわせプランの推進、②子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実、③安全安心な環境と新たな学校施設への取組を掲げております。計画期間は、平成27年４月から平成31年３月までの４年間で、本年度をもって計画期間が終了いたします。また、計画の位置づけとしては、市総合計画に即するもので、教育委員会の各種計画の最上位に位置するものでございます。以上のことを１枚にまとめたのが、この図でございます。現教育大綱で

は、この「教育施策の3つの柱」にそれぞれ3事業がぶら下がる形で整理されております。次に、「3. これまでの「教育大綱」に係る議論について、整理させていただきます。現「海老名市教育大綱」が本年度をもって計画期間が終了することから、今年度は、第2回、第3回の総合教育会議で協議事項とさせていただきます、ご協議を頂きました。9月8日実施の第2回総合教育会議では、「大綱の基本的な考え方は変更せず、『教育施策の3つの柱』について見直しを図るべきである。」「各事業の達成度等を精査し、進化する大綱としたい。」「協議を進め、平成31年度早々の総合教育会議で決定する。」といったことが協議・調整されました。また、11月18日開催の第3回総合教育会議では、担当課評価を元に、総合教育会議メンバーによる全事業（9事業）評価を行っていただきました。その中で、「学校給食について一定の方向性を検討すること」「オリンピック・パラリンピック等を機に国際理解を深めること」について、大綱に盛り込んでいくことが協議されました。今回は、「教育大綱」に係るこれまでの議論をふまえ、「新海老名市教育大綱（案）」を策定いたしました。図をご覧ください。「目標」、「取り組み」については、変更ありません。よって、新大綱では、「教育施策の3つの柱」を修正させていただきました。一本目の柱『「えびなっ子しあわせプラン」の推進』と二本目の柱「子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実」については、変更ありません。三本目の柱「新たな学校施設への取組と子育て環境の充実」については、「安全安心」だけでなく、「子育て環境全般の充実を図る」べく修正をいたしました。次に柱毎にご説明させていただきます。新教育大綱では、各柱に5事業を掲げています。（1）「えびなっ子しあわせプラン」の推進です。①新しい授業スタイルの確立【教育支援課】…えびなっ子の「学力」「集団力」「健康安全力」の向上をめざし、よりよい授業を実践するために、海老名市の教職員全員で、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた研修に取り組み、授業を改善します。②社会に開かれた教育課程の編成【教育支援課】…校長のリーダーシップのもと、子どもの実態と地域の特性をふまえ、保護者や地域の意見を取り入れながら学校全体で話し合っただけで教育課程を編成します。③小中一貫教育、コミュニティ・スクールの推進【教育支援課・学び支援課】…新たな学校体制づくりとして導入した小中一貫教育とコミュニティ・スクールの充実を図り、えびなっ子の成長を保護者、地域の方々、教職員がともに支える学校づくりに取り組みます。④英語教育及び国際理解の推進【教育支援課】…これからの海老名市の英語教育の進め方を検討・協議するとともに、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック開催により国際理解を深める契機とします。⑤学校ICTの環境

整備と活用【教育支援課】…学校ICTの環境整備とその活用について検討・協議するとともに、「海老名市学校ICT活用学習計画」及び「活用事例実践例」を作成します。

(2) 子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実です。①子ども・学校支援事業の実践【学び支援課】…学校応援団や保護者、地域の協力により、えびなっ子スクールの通年実施や授業支援等、更なる子ども・学校支援の充実を図ります。②社会教育計画の見直し【学び支援課】…学校応援団等、これまでの「学校を中心とした社会教育」に加え、「スポーツ」や「文化芸術」等を含む社会教育への再構築に向け、「社会教育計画の見直し」を行い、子どもを中心とした社会教育の更なる充実を図ります。③「ひろがる、つながる、みんなの図書館」への進化【学び支援課】…市立図書館としての一体性を維持しつつ、中央図書館は利便性の高い図書館として、有馬図書館はリニューアル工事に併せてコミュニティセンターとの複合施設として、「学び」と「コミュニティ」の拠点へと進化します。④相模国分寺跡等、文化財の積極的な活用【教育総務課】…相模国分寺跡等、文化財の保存・整備・活用とともに、歴史資料のデジタル化を進め、文化財を本市の魅力の一つとして市内外に情報発信します。⑤生涯学習講座の充実【学び支援課】…社会教育団体や保護者等を対象に「家庭教育学級」や「家庭と地域を考える集い」を開催します。また、広く市民の学びの場、交流の場として、市民講座「まなBINA」の充実を図ります。

(3) 新たな学校施設への取組と子育て環境の充実です。①「持続可能」で「夢」のある学校施設整備【教育総務課、就学支援課】…学校施設再整備計画に基づき、「学区再編」や施設の「増築、大規模改修、長寿命化改修」を行うとともに、施設の「ユニバーサルデザイン化」「木質化」を進める等、「持続可能」で「夢」のある学校施設整備を計画的に進めます。②安全安心のための環境整備【教育総務課、就学支援課】…子どもがいきいきと学べる学習環境と子どもがのびのびと生活できる生活環境を整備します。老朽化した樹木の剪定や教室の扉等、室内ガラスへの飛散防止フィルムの設置により、安心できれいな居心地のよい学校づくりを進めます。下校時の更なる安全確保のため、巡回パトロールの強化を図ります。③学校給食のあり方の検討【就学支援課】…今後の小中学校の給食のあり方や施設整備のあり方について検討を進めます。④義務教育に係る公費負担のあり方の検討【就学支援課】…義務教育に係る保護者負担の軽減と学校徴収についての検討を進めるとともに、今後の修学旅行のあり方について検討を進めます。⑤放課後児童クラブ（学童保育）の充実【学び支援課】…学童保育クラブの「質」及び「定員」の充実を図ることで、子どもたちに安全に放課後を過ごすことができる場を提供し、保護者が安心して子ど

もをあげることができる環境を整備します。説明は、以上でございます。新海老名市教育大綱（案）について、ご意見をお願いいたします。

○市長 ただいま事務局から説明がありました。教育委員から何かありますか。

○酒井委員 新しい大綱をつくるということで、今まで3本ずつだったものが5本ずつになって、それぞれ力を入れられないといけないことがたくさんあるのだなと感じております。今回、新しく追加になりました英語教育及び国際理解の推進については、これから4技能と言われるような力が重視されていて、読むことができる、聞くことができる、話すことができる、書くことができるというこの4つだと思いますが、これはどのように具体的に進めていかれるおつもりなのか。今、足りていないものは何だとお考えになっているのかを伺いたいと思います。

○英語担当指導主事 今お話があったとおり、4技能を今後伸ばしていくことについて、小学校の中ではとにかく話すこと、聞くことを中心としています。その1つとして、5、6年生の中で書くこと、読むことになれ親しんでいくという感覚で指導を行っております。中学校においても当然4技能が求められるんですけども、同じようにコミュニケーションの素地、コミュニケーションの基礎。コミュニケーション能力を伸ばしていくためには、まず、話すことと聞くことを授業の中でどう充実させていくかといったところが大きいと思います。それが定着した上で、さらに読むこと、書くことに段階を追って指導していくという方向で考えているところでございます。

○酒井委員 私も中学校、高校、大学で英語は勉強したのですが、話すとなると発音とかいろいろ問題がありまして、なかなか通じないなというところもあるので、通じるような発音を教えるとか、そういったことも重点的にやっていただければなと思いますので、よろしくをお願いします。

○海野委員 今回、さまざまところで見直しをされてと思いますけれども、その中の1つで社会教育計画の見直しというところに注意を向けました。これまでは学校を中心とした社会教育が行われていたと思いますけれども、見直しということで、さらに一歩進んで、スポーツや文化芸術の面で、今、企業が社会貢献を目的として学校等にかなり支援をされていると思います。そういう状況ですので、今までの学校の視点を変えていただいて、企業と学校が連携して、子どもたちに体験学習のようなものをされてはどうかと希望します。また、大学にも依頼して学校の授業の応援をしていただくと、子どもたちもより深みを持った視点を持つことができると思います。よろしくをお願いします。

○**学び支援課長** 社会教育につきましては社会教育委員会議で今後議論を進めていきたいと思っておるところですが、今のような視点も取り込みながらご議論いただいて、研究してまいりたいと思います。

○**松樹委員** 4年間たちまして、見直しという形でございますが、当然これからを見据えた施策として5つの柱を立てたということで、現大綱と比べると具体的に何をどうしたい、どう方向性を進めていくのかというのが本当にはっきりしてきたのではないかと考えております。よりわかりやすく議論できるのではないかと考えています。1点、今、海野委員からもありましたけれども、社会教育計画の見直しと書いてありますが、どこを見直していくのかがここでは伝わってこない。見直しだけですので、もちろん社会教育委員がいて、そこで議論をするのだと思います。こんな方向性の中で社会教育を進めていきたいということがわかるような文言、「見直し」ではない文言にかえたほうがよいのではないかと考えておりますので、ご検討いただければと思います。

○**平井委員** 今も出ていますように、具体的な取り組みが5項目出て、わかりやすく、今後事業展開をしていく上でやりやすいのではないかとこの感想を持ちました。社会教育に関しては松樹委員と全く同じで、4年間見直しをしながら、そこにさらなる取り組みや充実を図っていかなければいけないと思いますので、細かい文言になってしまうんですが、見直しではなくて、再構築とか、社会教育の充実とか、そのような形で4年間取り組んでいけたらよいと思います。そこにスポーツや文化芸術と書いてありますので、これからその取り組みの中身について具体的な検討をよろしくお願ひしたいと思っています。

○**教育長** 私が答えるのも変な気がしますが、社会教育計画を1度つくりました。それまでは、海老名には社会教育計画がなかったのです。私がここに就いてから、社会教育計画をつくりましょうということで、担当とやりとりをしました。よくよく考えたら、子どもたちは、土曜日にサッカーをやったり、スポーツをやったり、また、いろいろな文化団体に行って習っている。次年度をかけて、社会教育委員たちとみんなで作ろう、話し合いをしていく。これから四、五回話し合いをしながら、社会教育委員等の意見を聞きながら1つの計画を立てるといふ本来の社会教育委員会議の意義を今後支援したいと思っています。子どもたちを中心に学校教育以外のどんなところに社会のソース、要するに支援のソースがあるか、全部書き出します。先ほどの企業のソースとか、学校のソースとか。それと、学校応援団が子どもたちの社会教育をすべきであって、本来は、きょうもそこでやっていますけれども、サッカーの指導とかなんか、要するに学校教育以外の場面場面で多く



の人たちがそれを支えているんです。そういう社会教育の仕組みをつくりたくて、前回の社会教育計画を完全に見直して、子どもを中心に置いて、社会にどれだけのソースがあって、どういう人たちが支えているのか。その人たちの仕組みをどうつなげるかということ計画で示したいと考えておるところでございます。私は来年度そのように取り組んでいきたいと考えています。

○市長 お集まりの中で、今、案がプッシュされていましてけれども、これだけは言っておきたいという方はいらっしゃいますか。初めての方はなかなか理解できませんけれども、ずっと参加されている方でいらっしゃいますでしょうか。それでは、何かありましたら、いろいろと機会がありますので。これはパブリックコメントはやりますか。

○教育長 やりません。

○教育部次長（総務・社会教育担当） 総合教育会議で協議していただくことになっていきます。

○市長 何かありましたら教育委員会にお願いしたいと思います。一言だけ言っておきたいのだけれども、この中で見えないのだけれども、学力向上ってどこに入っているの、子どもの健康はどこに入るの。こういったところに入れ込んでいくという形が必要ではないかな。健康が第一であるし、学校は学力向上を目指すことも必要だと思うのです。格差社会ではなくて。それが見えないので。それがきちんと案の段階で説明できるように具体的にしておいてもらえますか。もう1つは、今も話題になった社会教育、生涯学習、見直す時期に入っています。2021年に海老名市は町から市になって50年を迎えます。ところが、50年を迎えて、1年だけで終わってしまうのではなくて、今、組織とか事業を全て見直すという方向で指示をしています。なぜかといいますと、50年前にできたものばかりなんです。例えば文化は市長部局で私のほうになりますけれども、海老名市文化団体連合会、海老名市体育協会、いわゆる指導者とか役員の高齢化に悩んでいます。若い人たちが入ってこない状況があります。50年前を振り返ってみて、みんな若かったと思うのです。ところが、若年層が入ってこないという現状があります。やる人はいらっしゃるのです。ただ、組織に入らない、次ができなくなって、海老名市文化団体連合会もどんどん少なくなっている。そのためにはいろいろな制度、50年前にできたものを見直していこう。なぜかという、50年を境にして、10年、20年、30年やっていく組織づくり、内容を見直すよう指示をしていますので、この部分は絶対必要なことだと思っています。生涯学習とか、社会教育とかは学校だけではなくて、全般にわたると思いますから、教育委員会にも

スピード感を持っていただいて、大綱をつくり、教育としてどうなのかという観点で、全ての事業や組織を洗い直していただきたい。それが31年度の作業で、32年度にある程度つくっていく。2021年には新しいものというか、新しい進化した組織にしていきたいと考えておりますので、どうかその部分を踏まえて、よろしくお願ひしたいと思っております。私からの意見というか、お願ひという形で聞いていただきたいと思ひます。これはこれで決定でないよね。

○教育部次長（総務・社会教育担当） 決定ではないです。

○市長 4月だよ。まだ期間がありますので、また具体的になったら、教育委員会に上げますので、どうかよろしくお願ひしたい。ご質問がありましたら、教育委員会にご意見として、口頭でも構いませんし、文書でも構いませんし、あるいは「市長への手紙」でも結構ですから、どうかよろしくお願ひしたいと思っております。それでは(1)についてはこの程度におさめていただきまして、(2)「市内小中学校の校外活動の状況について」お願ひいたします。

○教育部次長（学校教育担当） 「市内小中学校の校外活動の状況について」ご説明させていただきます。本来、学校の外での活動となりますと、例えば理科の授業で近くの公園に行つて探索をするであるとか、社会で工場見学に行くとか、いろいろなものがあるのですが、今回は修学旅行、野外活動、遠足という行事についてご説明をさせていただきます。まず、校外活動の位置づけでございますが、小中学校における遠足や修学旅行というものは文部科学省の学習指導要領に示されておひまして、必ず教育活動に取り入れなければいけないものとなっております。名称は遠足・集団宿泊的行事、中学校では旅行・集団宿泊的行事という名前になっておひまして、その狙ひがこのように定められておひます。校外活動の日程であるとか、どういう場所に行つて、どういう内容で行うんだということにつきましては、教育課程（教育活動計画）の1つとして、それぞれの学校で決定をすると定められておひます。海老名市では事前に実施計画書を海老名市教育委員会に提出する形になっておひます。それでは、海老名市の小中学校がどのような校外活動を行っているのか、具体的にご説明いたします。まず、修学旅行からです。小学校は、小学校6年生で、13校全部が日光に1泊2日で行つておひます。1人当たりの費用は1万9,000円から2万4,000円で、本年度の結果でございます。同じところに行つて金額が多少違うのは、人数によって1人当たりのバス代が変わってくるからでございます。続いて、中学校です。中学校は3年生で実施しておひますが、学校や学年によって、年によってということでは

が、行き先が異なっております。これは今年度の行き先、形態でございます。1人当たりの費用については5万円から5万6,000円程度となっております。続きまして、野外教育活動についてです。小学校では5年生で静岡県御殿場市の東山荘に1泊2日で行っております。費用につきましては約1万3,000円。これにつきましては海老名市で全額補助をさせていただきますいております。続いて、中学校の野外教育活動は1年生、2年生どちらかで行っておりますけれども、修学旅行と同じように、学校、学年によって行く場所が異なります。費用については7,000円から1万6,000円、金額がかなり異なることから、市の補助につきましては上限額を1万円という形で補助しております。最後に、遠足・その他についてです。小学校は、5、6年生は今言ったように野外教育活動、修学旅行へ行きますので、1年生から4年生で遠足を行っております。1、2年生では動物園や水族館、3、4年生では科学館や博物館に行く学校が多いです。そのほか近隣の大きな公園に行く場合もございます。金額は、歩いて行くような場合はゼロ円で、3,000円程度までとなっております。中学校の遠足は全校行くわけではありませんが、1、2年生で鎌倉や東京や市内、これは班ごとに回るような形で行っております。費用は6,000円、そのほか支援級についてはこのような形で遠足に行っております。以上、簡単ではございますが、現状の説明とさせていただきます。

**○市長** 今、市内小中学校の校外活動の状況について説明がありましたけれども、補足ですが、海老名市がなぜ野外教育活動に補助金を出しているかということ、数年前までは河口湖の富士ふれあいの森を海老名市が整備して、維持をして、中学校や小学校で行っておられました。ところが、維持するのに年間4,200万円かかっている。しかしながら、この補助金は、出しても3,500万円です。富士ふれあいの森は10月以降寒くて、4月まで使えないのです。このようなことで廃止して、現在のような形にした。今後これを見直すというか、内容としてどうなのかと考えていく必要があると思います。補助金についてはしっかり出していきたいと思いますけれども、今後どのようにしていくか検証しないといけないと思っています。それが野外教育活動。もう1つは修学旅行。来年度予算で、小学校50%、中学校25%補助金を出します。金額からすると、小学校が一人あたり1~2万円近くの補助をします。中学生は大体一人あたり1万5,000円を予算化しております。これは議会で承認していただかないとできませんけれども、そういった面で議論をしていただきたいと思います。補助をするのは、特に中学生の場合ですが、内容については校長先生や学校で考えることですが、高額な割には、保護者の意見、子どもの意見が充分

に反映されていない、反映してほしいという意見があります。学校がもう契約してしまっています31年度は無理ですけれども、32年度に向けて、教育委員会と学校校長が皆さんと検討させていただきたいと思っています。その口火を切ったのが今回の補助金であります。調べてみますと、中学校6校あります。先生方は公平にやっていますけれども、旅行会社と何をやっているかまではわかりません。だから、ばらばらなのです。最近、旅行でもすごく北海道が安いです。2泊3日で3万8,000円で行けるという状況もありますし、すごくツアーが安くなっています。そういうときなのに、学校で申し込むと5万円近くかかる、少なくとも3万円。これは旅行会社の関係もあるのですけれども、それを入札とかプロポーザル、提案型でそれぞれ6校出してもらって、一括入札で落としてしまうのです。教育委員会と学校で充分考えていただきたい。これも1つの見直しだと思いますので、安くなれば同じ内容でも保護者負担が減る、それプラス公費や補助金が入りますと相当保護者負担が軽減されます。ジャージ服等のコンペ等も始まりましたので、どうかよろしくお願いします。そういった気持ちで予算化したので、その部分を踏まえて、教育委員会から何かありましたらよろしくお願ひしたいと思います。

**○松樹委員** 中学校の修学旅行に的を絞って市から補助という形で、今後議会でご議論いただけるのだなと思っています。中学校の修学旅行は、保護者の方と学校の関係というのでしょうか。なぜこんなところに行くのだろうと。前も出ましたけれども、具体的な説明責任が足りないと思うのです。内容については学校の先生方が目的を考えてやっているとは思いますが、その辺をしっかりと保護者の方にご説明いただければと思います。補助が入るとはいえ、今5万円以のご負担があるわけですので。ちょっとこの話とはずれてしまうのかもしれませんが、昨年、教育委員会で静岡県島田市を視察して意見交換会をさせていただいたのですが、島田市には修学旅行に行く生徒に、あそこはお茶が特産ですので、お茶のパックを持たせるそうなのです。1人何パックかは忘れてしまいましたけれども、向こうへ行ってタクシーに乗ったり、出会った人であったり、食事をしたところでお世話になった方にお礼として渡すそうなのです。自分たちのまちに誇りを持って、お世話になりましたという形で渡して、それも1つのやりとりの出会いで良いのではないかと思います。今、時代が移り変わってきているわけですので、いろいろなエッセンスを取り入れながら、凝った内容を組み立てていただきたいと思います。

**○海野委員** 私は孫から聞いたことと校長先生から聞いたお話なのですけれども、やはりそれぞれ学校としての教育方針によって、このように民泊もそうだし、平和学習もそうだ

し、学校によって考えられていることはわかりました。私は聞いたからわかりましたけれども、それが保護者の方に、今、松樹委員がおっしゃったように伝わっていない面がすごくあると思うのです。ですから、決まった後で、子どもたちが「何でここに行かなくてはいけないのかしら」「民泊に行かなくてはいけないのかしら」という不満が出てくると思うので、今後ともいろいろなことを計画されると思いますけれども、ぜひ1年生に入った段階から、学校はこういう方針でこういうことをしますけれども、保護者の方、いかがですかというふうに保護者の方の意見も聞くし、子どもたちの意見も聞くように今後とも補助事業を活用して企画していただければと思います。よろしくお願いします。

○酒井委員 松樹委員がおっしゃられたように、説明責任を果たしていただきたいということです。中学1年生の娘がおりますけれども、こういう考えの中でこういう施策にしていますという説明をしていただいた記憶がないというか、記憶に残る形での説明をしていただいていないと言うほうが正確なのかもしれません。その説明責任をというのももちろんわかりますし、どちらかという、意見のすり合わせをするような機会というものが無いし、意見をすり合わせようという保護者もあまりいないのかなとも感じますが、これに対してあまりに思っているままだを伝えてよいのだろうかという遠慮のようなものも保護者としては感じる時もあります。そのあたりをもっとオープンに話し合う機会をどのようにつくっていくのかというのが課題なのかなと思います。修学旅行とあわせて、野外教育活動のほうですね。2泊3日のところと日帰りのところとあって、子どもたちにとって、中学校に入ったときに新しい仲間と宿泊をして過ごす時間というのは非常に思い出にもなるし、クラスの人間関係をつくる上でも大きな役割があるのかなと思うのですけれども、私の聞いたところだと、する内容、活動は同じ。ある学校では日帰りで、ある学校ではキャンプと絡めて2泊3日でやるというところもあって、そのあたりは学校によっていろいろ指導の方針等があるのは重々わかるのですが、公立の中学校、公立の小学校は住んでいるところで決まるので、選択の余地が保護者としてはないわけです。ある程度そこが平等になってくれたほうが保護者としてはその違いを感じなくてよいし、ほかの方は知らない情報だと思うので、よそは2泊3日で行っているけれども、うちはこういう目的があって日帰りにしているのですというような説明があれば、またちょっと違ってくるのかなと思います。

○市長 今の酒井委員のお話で2泊3日と1泊2日と日帰りがありましたけれども、教育委員会ではどういう把握をされているのですか。

○**教育部次長（学校教育担当）** 野外教育活動という言い方では、それぞれ1回、補助金のことも含めて行っておりますけれども、そのほかにも、先ほど遠足というような形でやっている学校、やっていない学校あります。やはり3年間の中で校外活動だけではないのですけれども、校内でもいろいろなことをやっているのです、総合して考えないと、1つの行事の泊数で全て差が出てくるとは考えられないかなと考えています。そこも含めて、それぞれの学校の計画で行っております。

○**酒井委員** そのように学校が考えていらっしゃるのによくわかるので、それが伝わっていくようにしていただきたいということです。

○**市長** 考え方でいったら、こういうことなのです。ほかのところは1万円補助するから、中学校の遠足はこちらで出せば全部行けちゃう。何で野外教育活動で海老名市は全額補助金、1万円の補助金を出しているのかというと、キャンプをやりたいという小中学校の意見があったからです。富士ふれあいの森をやめてしまうので、ほかのところへ行くと経費もかかるから、4,200万円かかっていたものを3,500万円出してキャンプを行っていた。ただ、日帰りだったら当然遠足ということです。それは私も疑問だった。そもそも論から言って、その中学校はキャンプが嫌だったのではないか。結果的にやめただけであって、そういう中学校もあるのではないか。やめたければやめてしまえばよいのですよ。極論としてはそうだと思います。生徒とか先生が行きたくないのに、行く必要はない。教育として必要だからやっているのだったら、海老名市は補助金を出していこうと思っています。教育として必要だということだから、別なところへ行くのにはお金がかかるから、充実させてくださいということでお金を出している。これが日帰りだったら遠足ですよ。

○**教育長** 誤解があるので。細かく書いていないので、さっきの日帰りのところは7,000円なのですけれども、1泊2日すると結構なお金になるのです。特別なアドベンチャープログラムをここで体験させているのですよね。内容は書いてありますけれども、それを活用することで子どもたちに力をつけさせる授業なので、そこでやっている。その辺で酒井委員が言うように説明責任を果たすべきだなと思うので、これ自体は行きたくないとかではなくて、この活動には意義があるということを学校で判断してやっているところであります。

○**酒井委員** 宿泊をするのにお金がかかるから、それで日帰りになったというご説明を受けました。少し質問をさせていただいてもよろしければ、宿泊でアドベンチャープログラ

ムをしていらっしゃる学校はございませんか。

○**教育部次長（学校教育担当）** プロジェクトアドベンチャーとか、いろいろな呼び方があるのですけれども、ほかの宿泊でやっている場合もありますけれども、一番下の7,000円、日帰りで行っている学校は特別な巨大な施設を組み上げてやっているような施設ですので、ほかの学校がやっているプロジェクトアドベンチャー等は教員が行っていたり、その施設の指導員が行っていたりという形で、やれるものの規模というのは大分違うと思っております。

○**教育長** 学校全体としてプロジェクトアドベンチャーに取り組んでいるのです。この前のひびきあう教育研究発表のように。その一環で野外活動ということ。ぱっと見るとちよっと誤解を受けますけれども、学校教育計画全体の中で必要だと考えているところであります。

○**酒井委員** そういう説明をきめ細かく保護者としてはいただきたいということです。よそではこういうプログラムをやって、2泊3日で行っていますとか、ここは1泊2日で行っていますという情報はわかりやすいので。そういうものを聞くと、どうしてだろうという疑問はどの保護者の方も思われると思うのです。私は今教育委員をさせていただいて、いろいろなお話を聞く機会があるのですけれども、一保護者になってしまうと、納入金の中でそういうものを見るだけになってしまう部分があるので、今、事務局や教育長にお話しいただいたように、そういった説明を全体の保護者向けに、子どもたちに向けても、細かく丁寧に行っていただくというプロセスがあるとよいのではないかと思います。ありがとうございました。

○**市長** 学校の先生からありますか。聞きたいのですけれども、中学校で青森に2泊3日で行くではないですか。広島は原爆ドームに行くでしょう。有名な神社に行くでしょう。広島だけではないでしょう。ほかの観光地も回るでしょう。

○**教育部次長（学校教育担当）** はい。

○**市長** 京都・奈良はわかるけれども、青森はどこを回るの。聞いたところによると、2日間、ニンクづくりで終わってしまっていて、十和田湖もどこも行かないで、ニンク1個をもらって帰るといふ。農業体験ばかりやった、農家はいっぱいあるから。青森に行ったら十和田湖を見るとか、やっぱり有名どころがあるではないですか。何にも見ないで、ニンクづくりだけ2日間やらせて帰ってくるのなら、海老名で稲作づくりとかトマトづくりを経験させたほうがよいのではないのと思ったのですよ。だから、現実の中で私たち

は奈良・京都へ行ったら、ちょうどそのとき万博があつて、1泊追加されて万博を見に行きました。やっぱり思い出になりました。1回しか見られないし。だから、それぞれに特徴のある県に行っても、ニンニクづくりだけでは何にもないのではないかと。地元の子どもたちと交流なんかがあればよいのだけれども、全然交流はなくて、農作業を手伝って、食事をして、農作業を手伝って帰る。教育的な効果としては前から疑問を持っています。ある子どもは、伊賀に行ったら2日間大雨で、何も見ないで、その家にずっといたと言うのだよ。そういった部分でいろいろな検討をする時期だと思っているのです。だから、教育委員会と学校長と保護者代表といろいろな話をしてもらおう。保護者負担軽減が始まっていますから、内容については触れません。だけれども、補助金を出しているのだから、契約のやり方、行き先の決め方をしっかりやっていただきたい。見直しのスタートを切ってほしいと思います。

○教育長 それについてはもう既に準備が始まっています。次年度、修学旅行等検討委員会がスタートします。この後、2つの柱で見直しと検討を図ってまいりたいと思います。

○市長 保護者の方はいらっしゃいますか。

○傍聴人 今お話を伺っていて、内野市長もそうですけれども、私たちも当然ながら五十数年前は遠足、修学旅行、非常に楽しみにしていたということで、当時はそれぞれの家族で、田舎に行ったり、ない人は夏でもうちにいたり。そういう中で旅行、遠足というのは非常に楽しみにしていた時代でした。ところが、現在は、車社会になったこともありますが、いろいろなところで家族で行っている。何が言いたいかというと、先ほど市長からお話しあったように、補助金は当然ながらどこの家庭にとっても大事だと思います。助かります。必要性があり、また、要望があるから補助金をきちんと出して援助しようということで、さっきのキャンプも強制的にやるのではなくて、自分たちが行きたいというのであれば、当然ながら市民としてもよいのではないかと。ただ、強制的に行かせるのはちょっとおかしい。今まで、行き先を含めまして、誰が決めていたのでしょうか。さきほど内野市長も言っていましたけれども、観光業者か、それとも皆さんか。今までの慣例の中でこのようにやってきたのか。子どもたちに意見を聞いてくれとは言いませんが、今の時代、やはりいろいろなところで自分たちで行っていますので、その中で自分たちの意見も多少は入れてもらおうと、今言ったようにもっと旅行が楽しみになってくるのかな。現実には旅行会社、今までの慣例で修学旅行はあそこ。今の話のように、青森のニンニクでなくてもよいわけですよ。子どもたちが青森でニンニクをやりたいというような意見もあつて、「今



回はニンニクをみんなでやりましょう」とか、子どもたち、生徒たちの意見を聞けば聞くほど非常に難しくなりますけれども、多少なりとも意見が反映されて今までやってきたのかということ伺いたいと思います。

**○教育長** 先ほど言ったような旅行会社による違いは絶対ないです。学校から意見を入れておきます。学校で、例えば遠足、こういう行事には目的があって、普段と違う環境で、文科省がその案を出したときは、体験的な活動というものがありませんでした。私も田舎の生まれなので、修学旅行で初めて東京を見に行くというのが我々の修学旅行でした。今は行けるので、子どもたちは集団で体験的な活動をしてくださいというのが方針です。もう1つあるのは、純粋にまちおこしみたいなものがありまして、例えば岩手等では自分たちの生活に修学旅行を受け入れる、「子ども農山漁村交流プロジェクト」というものがあります。総務省、文部科学省、農林水産省、環境省連携施策として修学旅行生の受け入れ場所をつくって、補助金を行うような制度があります。そういう紹介も各学校にあることはあります。ただ、学校はさまざまな紹介の中から子どもたちにどんな体験をさせるのかということで、教員たちが職員会議で議論して研究しているのが今の方向です。おっしゃったように、実を言うと私自身もちょっと同じ意見を持っているのですよね。もちろん学校がいけないというのではなくて、子どもの意見を聞くことも大事だろうと思っていますので、修学旅行等検討委員会を次年度立ち上げて、その中で修学旅行の決定から、また、入札とか、そういうものも含めて、海老名市として見直しを図りたいと考えておりますので、ご意見を反映させたいと思います。

**○傍聴人** 生徒会とかがあるのですから、生徒会の役員の意見を聞くのではなくて、できれば生徒会に投げかけてみるとか、そういう形でお願いできればと思っております。

**○市長** よろしくお願ひいたします。よろしいでしょうか。それでは、検討委員会を設けて検討するという方向で進めていきたいと思ひます。(3)「中学校給食について」簡潔によろしくお願ひします。

**○教育部次長（財務・法制担当）** 私から「中学校給食について ～今後の学校給食の方向性～」ということで説明をさせていただきます。最初に、「1 本市の学校給食の歩みについて」簡単に振り返りをさせていただきます。昭和48年5月、学校給食センターを開設しまして、小中学校の完全給食が開始されました。その後、南部学校給食センターの開設などを経て、昭和56年9月に中学校給食が廃止（ミルク給食へ）されたところでございます。その後、平成20年1月には東柏ヶ谷小学校で単独調理場による給食開始がされまし

て、平成23年4月に中学校ミルク給食に加え、給食弁当注文方式による学校給食開始と同時に、学校給食費の公会計化の開始をしたところでございます。その後、平成24年9月に学校給食センターと南部学校給食センターを廃止いたしまして、現在「食の創造館」を開館。今年度7月に大谷中学校と柏ケ谷中学校で「あたたかいごはん」の提供を試行したところでございます。「2-1 小中学校給食の現状」でございますけれども、小学校につきましては、食の創造館による給食の提供ということで、12校で6,732名に対して提供しております。また、東柏ケ谷小学校につきましては単独調理場がございますので、そちらで給食を提供しております。小学校の給食費につきましては年間4万4,000円で、4,400円の10回払いとなっております。主食については、米飯が週4回、パンが週1回でございます。一方、中学校につきましては、ミルク給食と弁当注文方式による給食ということで、こちらが6校で3,509名に対して提供しているところでございます。また、弁当注文方式の状況でございますけれども、昨年度、平成29年度は11万食余りで、喫食率については19.2%となっております。また、中学校の給食費につきましては、ミルク給食が2,600円の2回払いで年間5,200円、また、弁当注文方式につきましては1食ごとで250円となっております。先ほど出ましたあたたかいごはんの提供【試行】でございますけれども、今年度、大谷中学校が7月、柏ケ谷中学校が11月から12月にかけて、それぞれ3日間提供したものでございまして、食の創造館で炊きました「あたたかいごはん」を給食時に盛り付け方式により配膳を行いました。アンケート結果といたしまして、アンケート回答者のうち約97%から「とても温かかった、温かかった、美味しい」という非常に好評な意見をいただきました。そのほかの意見といたしましては「僕にとって最高のお弁当になった」「当番に『ありがとう』と声をかけてくれて嬉しかった」「クラスの皆と話せて良かった」「盛り付ける方式なので、満足できる分食べられた」という好意的な一方、「次やるなら給食がいいかな」「時間が無かった。（移動教室だと大変）」というような意見をいただいたところでございます。「3 給食調理施設の状況」でございますけれども、食の創造館の調理能力（1日当たり）が8,000食、一方、東柏ケ谷中学校単独調理場の調理能力（1日当たり）が700食ということで、合計で8,700食の調理能力（1日当たり）を有しているところでございます。一方で、海老名市の児童生徒数は約1万700人でございますので、こちらの2施設でも全員に給食を提供することは現時点ではできない状況にございます。このような中、「4 都道府県別中学校完全給食実施状況」でございますけれども、まず、中学校の完全給食が実施されている率が高いのは千葉県でございまして、一番

右の列、千葉県の公立中学校総数が380校、うち全ての学校で完全給食が実施されているという状況でございます。2番目は、福島県、愛知県、埼玉県とございまして、我々神奈川県につきましては、47都道府県中、完全給食の実施率は27.3%ということで、46番目の兵庫県と比べましてもかなり低い状況でございます。その上で「5 今後の学校給食の課題」といたしましては、まず中心には、当然安全・安心な給食の提供というものを踏まえながら、今後、中学校完全給食実施の検討、また、給食調理施設の検討、食育・地産地消の推進、給食費（保護者負担）の検討等を行って、これらの課題解決に向けまして、（仮称）海老名市学校給食検討委員会を設置して検討を進めてまいりたいと考えております。これからも海老名市の児童生徒が健康で生き生きと成長できるよう、安全安心な学校給食のあり方について、研究を進めてまいります。

**○市長** 今、説明がありました。検討委員会を設けていくという形になりますので、教育委員の皆さん、関係の皆さんから、ここの部分について聞きたいとか、ありましたらよろしくをお願いします。

**○海野委員** 私の孫は弁当注文方式でお弁当を中学のときにとっていたのですが、今ここを拝見すると喫食率が19%ということなのですね。せっかくこれだけ補助していただいているのに少ない点を説明していただけますか。

**○就学支援課長** 喫食率19.2%の評価をどう捉えるかというところなのですが、お昼の時間、誰もが食事をとれる環境の整備というところで、注文方式の給食を考えておりますので、喫食率を上げていくというところはもちろんですけれども、誰もが安心して、みんなと一緒にご飯を食べられる環境を整えていくというところが一番の狙いでございます。

**○教育長** これ自体は神奈川県のほぼトップランナーでございますので、今、藤沢市、寒川町がこれに追随しています。今、神奈川県では2通りに分かれていて、今の弁当併用方式の喫食率を上げて、家庭の弁当と併用するか、それとも完全給食にかじをとるか、どちらに分かれています。ここ二、三年で神奈川県はどちらかにいかれると思うのです。ただ、施設を建てるのにかなりの費用がかかります。保護者にとっては、お弁当をつくりたいけれども、お弁当をつくれないう状況、例えば急な冠婚葬祭があるような場合など常に頼めるようにということで始まった。最初は業者の弁当を入れたのですがけれども、業者への注文が1日に1個とか、2個とか、3個だったのですよ。それで業者は撤退しました。それではいけないだろうということで、給食として出すから、市で栄養士を採用する方式でやることになった。その次のプランでは、例えばスマホで注文できるとか。喫食率より

も、ないときは常に給食が頼める、当日も頼めるということなのです。当日何人食べさせたかというのはファクスできます。その弁当は、大人が食べると、みんなおいしい、おいしいと食べるけれども、子どもたちにとっては自分たちの母親だとか家の人たちがつくってくれる弁当なら、好きなものが入っているから、そういう弁当と普通に出た弁当を比べるとどちらがよいか。これを始めるときに保護者から言われたのは、全部これにしてくださいということです。全部これにしてください、これでよいではないですかという意見もあったのですが、それまで子どもたちは家庭の弁当を持ってきたということもあるので、やはり子どもたちの現状を見ていると、どちらが好きか、どちらがおいしいかという、子どもたちは家の弁当を望んでいるということが言える。これが完全給食だったら別ですけども、子どもたちが今、公的なお弁当と家から持ってくる弁当で、どちらかを選ぶときには家庭の弁当を子どもたちは選ぶ。それは、そのまま嗜好という面があらわれているのではないかなと判断しています。

○市長 保護者の方々は何かありますか。中学生がいらっしゃる方、小学校でもよいです。

○教育長 単純に完全給食とどちらがよいかというのがありますが…。

○市長 今まで教育委員会では、家庭の弁当を中心にして、注文弁当を始めたのですね。いろいろな議論がありましたけれども、基本的には行政として決めました。4年に一度の選挙では非常に話題になります。どこの選挙でも。中学校給食。私、はっきり言って、ばかばかしいと思っています。なぜかという、行政の市長が決めたわけではなくて、教育委員会の方針です。私は費用対効果で、やるならやろう。だけれども、予算があるから、あれもこれもは無理ですよ。校舎をつくって、直してほしい、iPadを入れてほしい、給食の施設をつくってくれ、それは無理です。だけれども、いろいろな議論をしたけれども、やっぱり注文弁当の喫食率は低いでしょう。中学校の給食は週に1回ならよいというご家庭がふえてきている。これから今泉小学校に何かつくって、その辺の中学校とか、ちょっと近い中学校へ配食すればある程度これは賄える可能性はあるのです。ですから費用対効果の検討はしっかりやってください。小学校は自然と自校案になります。子どもが少なくなるから。今はセンターでやっています。徐々に移行するのにワンステップとしてどこまでやればよいか。完全給食で月火水木金と5日間やる必要はないと思うのです。最初は3日間でもよいし1日でも、2日間でもよいと思うのですよ。初めはそのほうが保護者の皆さんはよいでしょう。徐々に児童が減ってきたら増やしていく、あるいは施設をつく

ったときに小中学校の給食にするとか、そういうパターンを考えていく。ところが、小中学校で給食設備をつくったときに、将来児童生徒が減ってしまったら設備だけが残る。そこで考えられるのは高齢者の配食であると思います。地域の高齢者の配食をやるのですよ、食の創造館。学校給食センターは学校しか配食できないけれども、食の創造館は文部科学省の補助金を一切もらっていないので、高齢者への配食もできる。そういった機能が行政には必要なのです。あの施設もあと10年ぐらいだと思うので、教育委員会で検討委員会を設けて、できることを案件ごとに十分進めてください。予算上の対応はしますけれども、ある程度費用対効果も出さないといけない、将来が見えてこないといけないでしょう。やるならやるではなくて、将来は人数がこうなるから、このようにやりたいとか。今、提案でもちょっと出ているのですよ。栄屋製パン、米飯をやってくださいと言ったら、全部米飯を入れてくれるのです。問題は学校の受け皿なのですね。授業形態も違い、中学生も忙しい。給食の時間、食事をする時間をつくらないといけない。その辺は学校現場と教育委員会とで相談して、学校現場も忙しくて、子どもも忙しいですから。昼休みもとらないで何かをやっているとか、いろいろ聞いていますから。どうかその辺も含んで鋭意ご検討いただきたいと思います。教育長、よろしく申し上げます。(1)から(3)まで終わりました。ここで会場整理をしましょう。

○**教育部長** では、市長が申したとおり、レイアウト変更のお時間を頂戴いたしますので、しばらくお待ちください。

( 休 憩 )

○**教育部長** そろそろ再開をさせていただきたいと思います。それでは改めまして、協議事項(4)「海西中学校生徒からの学校生活に関する提案について」説明させていただきます。この協議事項につきましても、最初に申し上げましたとおり、海西中学校の生徒会の生徒さんが直接市長と教育委員会へ提案をさせていただきます。そのご提案を受けて、市長と教育委員会が議論するものでございます。狙いといたしましては、学校のことを大人だけの目線ではなくて、子どもたちの新しい発想、柔軟な考え方、そして夢のある提案等をお聞きしまして、教育施策の参考にしていきたいということから企画したものでございます。それでは、ご入場いただきます。海西中学校の生徒の皆さんです。大きな拍手でお迎えください。

(拍手)

○**教育部長** 海西中学校の生徒会の皆さん、こんにちは。このたびは総合教育会議にご参

加ありがとうございます。また、提案を考えてくださったことに対しまして、改めてお礼を申し上げます。今回、こちらにお並びの7人の皆さんに提案を準備いただきました。そのうち、2年生の4名の皆さんから発表していただく予定としております。どうぞおかけになってください。それでは早速ですが、皆さんから発表をお願いします。よろしくお願いいたします。

**○生徒A** これから海西中学校をよりよい学校にしていくための提案をさせていただきます。提案内容は、タブレット教育について、チームティーチングについて、机・椅子の老朽化について、西門の安全対策について、ロッカーの老朽化について、音楽室の暖房器具についてです。初めに、タブレット教育についてです。小学校ではタブレットを授業に取り入れていると伺ったのですが、中学校でもそうしてほしいと思います。実際にタブレットを使ってみて、やはりパソコンより使い勝手がよく、生徒全員が簡単に操作できると思いました。次に、チームティーチングについてです。現在、海西中学校では生徒約30名から40名につき先生1人で授業をしています。しかし、このチームティーチングをすることによって先生の人数がふえ、生徒側としては質問がしやすくなり、先生側としては生徒を満遍なく見られると思います。

**○生徒B** 続いて、机・椅子の老朽化について提案します。まず、右上の写真を見てください。右上の写真は教室の机の写真です。机の天板に穴やへこみがあり、字が書きにくいので、大変不便です。次に、右下の写真を見てください。右下の写真は美術室の椅子の写真です。木の部分にささくれのとげの飛び出しがあり、けがをするおそれがあるので、大変危険です。修理を希望します。

**○生徒C** 続いて、西門の安全対策について提案させていただきます。現在、生徒が登下校時に利用している西門は、鉄製のため、大変重いです。この動画を見てください。これは西門のあけ閉めをするときの音なのですが、このように開閉時にとっても大きな音がします。また、この重い門が1度台風による強風で倒れたことがあり、けが人などは出ませんでした。またこのようなことが起こるととても危険なので、改善を希望します。続いて、教室のロッカーの老朽化についてです。近年、生徒が利用している教室のロッカーにゆがみやへこみがあり、とても使いにくくなっています。ロッカーには教科書などの荷物を入れていますが、写真のようにロッカーの天板部分がへこんだり、外れたりしているところもあるので、修理などをしてほしいと考えました。

**○生徒D** 続いては、音楽室の暖房器具について提案をさせていただきます。各教室にエ

エアコンがついているのですが、音楽室だけ別の暖房器具がついており、それがとても不便なので、エアコンにかえてほしいと考えました。不便な点として、風がとても強い、暖房にしても途中で冷房になってしまい、器具の中に詰まった水滴が漏れてくるのです。実際の音楽室を見てください。映像では伝わりにくいところもあったのですが、この暖房器具はとても風が強く、音が大きいです。音楽室は全学年の音楽の授業や吹奏楽部の活動場所として使用するなど多くの生徒が利用するので、現在より環境整備をすることで生徒が快適に過ごせると思ったので、エアコンの設置を提案させていただきました。以上をもちまして、海西中学校からの提案を終わります。ありがとうございました。

(拍手)

○**教育部長** 皆さん、どうもありがとうございました。よりよい学校生活のためにしっかりと準備をして発表してくださいまして、大変参考になると思います。ありがとうございました。では、ここからの進行につきましては市長をお願いいたします。

○**市長** 教育委員会、コメントはありますか。

○**教育長** タブレットの充実というのは、学習内容にかかわるすごくよい提案だったなと思います。君たちの気持ちはわかりましたので、また市長とお話する中で、小学校はタブレットをもう少し充実させたいと思います。中学校も先日タブレットが入りまして活用していただいていると聞いています。最新型で少ない台数ですけれども、生徒会活動とか、部活とか、いろいろな活動の中で活用してほしいなと思います。でも、この先の海老名市は、あなたたちのような次の時代は、こういう器具を使って社会生活をしたり、仕事をしたりしますので、それは充実させていきたいと思います。チームティーチングについては、本当におっしゃるように、先生たちも1人で授業をすることは大変な作業になります。実を言うと、海老名市は、他市と単純に人数を比較すると、教員以外の先生がいっぱい入っている市なのです。それでも生徒たちがチームティーチングで国語だとか、数学とか、英語とかもやったほうがよいと言うなら、それはまた、考えていきたいなと思います。今まで海老名市ではかなり多くの先生を市の費用で雇ってきたのです。その人たちは目的別と言ったら変ですけれども、これは何々のため、何々のためと入れたのですけれども、次年度から学校の希望により、目的、人数の枠、うちはもっとチームティーチングを使いたいというところもありますので、また生徒たちの希望を踏まえながら、教員と話し合いながら的確に実施していきたい。あと、下のほうの問題は、市長からはすぐ直せと言われるかもしれないけれども、ロッカーの要求があったときに、私も実はみんなと一緒に

見に行ったのです。今年度、子どもたちが学校に持っていく荷物の重さをはかったりしています。そういう中で、ロッカーとか、個人用の入れ物とかなんかを100円ショップでも売ってはいますので、その費用については、今のロッカーを直すなら直しますが、それ以外に1人1人が荷物を置けるような場所を、学校に置いておいていいような場所は教育委員会としても今後積極的に検討しなければいけないなと思っていますので、その点だけは私から回答しておきたい。

○市長 ほかにはありますか、教育委員会。学校の先生はありますか。まず、机・椅子の老朽化とロッカーの老朽化については全校調査してくれますか。全校の机をかえたら幾らかかるか、部分的に計画をつくってください。それから、ロッカーの問題は、小学校はよいのですけれども、中学校はもう個人のものとしてありますから、今までのように小学校のままでよいのか。鍵つきがよいのか。男女いますから、そういった部分も含んで考える必要がある時代になっていると私は思っています。だから、ハード面では耐震とか、学校の改修をやっていますけれども、中を見ていて見えないところがあるので、その部分は調査をしていただいて、計画的にやりましょう。ロッカー、机・椅子、西門の安全対策は即やってください。危ないので。音楽室の暖房器具については、学校は全部エアコンに変更したのではないですか。何でこれだけ……。

○教育総務課長 音楽室のエアコンは平成10年に設置して、平成19年、20年では普通教室のエアコンを入れていきますので、音楽室だけ大分たっています。

○市長 海西中学校だけではなくて、小中学校は3年かけてエアコンを入れたのではないですか。使えるエアコンはそのままで、有馬小学校がそうだったのですよ。有馬小学校はそのときにはやらなかった。新しかったから。老朽化した部分のエアコンについては早急に調べていただいて、考えていきたいと思っています。タブレット教育については本当に難しい。1回入れると3億円かかるといいます。小中学校全部入れると。パソコンが2億何千万円かかっていますけれども、1回手を染めたら、そこからもう引き下がることはできません。そこで、小学校は入れました。中学校はパソコンもあるでしょう。それをどちらかにすることはできないのですね。2つ用意しないと。そこでどれだけの予算を投入するかという議論になります。来年度予算に入れたよね。

○教育長 小学校に入れた。

○市長 中学校も入れなかったかな。

○教育部次長（学校教育担当） 小学校は増台です。



○市長 中学校は入っていないのか。

○教育長 中学校は入ったばかりなので、今の台数で、さっき言った生徒会とか、部活とか、そういう活動で活用してもらって、ICTのパソコンそのものの授業は、パソコン室が残っていますので、それはそれで回して、タブレットの活用性を検証してもらって、その結果をまとめたいと思います。

○市長 ただ、そこでタブレットを入れると、指導者の問題が出るのだよね。今回の予算編成の中でも、やっぱり学校の先生自体がついていけないところがあるから、それは機種を決めたときにシステムエンジニアを派遣するような契約とか、いろいろな計画をさせていただいて、ICTって難しいのですよね。国はどんどん変わってきている。最初はパソコン教室、パソコンを入れて、全部入れて、クラスを改修して、1000万円ぐらいかけて全部やったのですね。でも、それは今度、小学校は要らなくなってしまった。そういった面で文部科学省の指示があるのですけれども、市には一切お金は来ないのです。先ほど修学旅行がありましたけれども、修学旅行は保護者と公費の関係で全部補助。そういった部分で文部科学省は言うだけだから、責任は持ってくれないから。そこで、海老名市として特徴あるICTをどのようやるのかというのを確立してください。そうすれば1校入ります。やっぱり時代背景で、何年かたったら、また戻すのでは莫大なお金がかかるので、言われたことについては一生懸命やっていきたいと思います。1番については検討させてください。2番については、教育委員会はそれなりにやっていると思います。必要な部分については予算請求をしていただきたい。3番、5番、6番は早急な調査をしていただいて、海西中学校だけでなく、これはほかの中学校、小学校も含めて。4番は早急にやってください。予備費か何かで。あるいは新年度の予算で。30年度予算は余っていないの。

○教育総務課長 老朽化している部分もございますので、ここも計画的に予算執行していきます。

○市長 危険なものは早急に言って。安全対策は必要なので、早急をお願いしたいなと思います。早急をお願いしたいというのは私が決裁権を持っていますから、その部分はしっかりと計画を立てていただきたいと思います。皆さんから何かありますか。私の話はわかりましたか。教育長、よろしく申し上げます。1年生は3人か……。修学旅行はどこに行きたい？何でもいいから言って。本当の気持ち、どこに行きたいか、自由に。後で先生に怒られるかな。

○生徒E 日本だったら、京都か、ディズニーランドに行けたらよいなと思います。

- 市長 京都・奈良に行ったら、ユニバーサルだね。率直なやつを……。
- 生徒F 私は社会の時間で京都とか奈良にこういう寺があるとか聞いたことがあるので、京都・奈良に行きたいです。
- 生徒G 自分も京都とか奈良に行きたいと思っていて、ほかの生徒から聞いても、やっぱり京都・奈良という意見もあって。学習の部分も入れたほうがよいのかなと思って。
- 市長 2年生は来年度どこに行くのですか。
- 生徒A 福島。
- 市長 会津若松ね。
- 市長 鶴ヶ城も、五色沼もよいしね。どこに行きたかったですか。
- 生徒A もう決まってしまったのですけれども、ディズニーランドとか、ディズニーシーとか、遊園地系に行きたいです。
- 生徒B 正直に言いますと、よみうりランドに行きたいです。
- 市長 夢がないな。
- 生徒C 方向性は変わりますが、個人的には広島の方は、原爆ドームもあって、そういった勉強もできるし、景色も結構きれいなところがあるようなので、行ってみたいと思っています。
- 生徒D 僕は1度京都に行ったことはあるのですけれども、清水寺に行ったことがあって、とても景色がよかったので、それをみんなと味わいたいという面でも、京都や広島に行きたいと思います。
- 市長 いろいろ聞いたけれども、教育委員会や検討委員会や学校の先生、よろしく願いますね。やっぱり京都・奈良ですよ。私もそうだけれども、保護者の方もそうですよね。皆さん、そうなのです。個人的には行っているのですよ。私も連れていったことがあるし、親と一緒にいたり。だけれども、子どもたちだけで行くというのがよいのだよな。京都もそうでしょう。家族旅行では行っているけれども、みんなと一緒にいきたい。修学旅行のどこを見るにしても、みんなで行くということだと私は思いますけれども、内容はそちらですから、今言ったことを海西中学校は実現してくれると思いますよ。北海道というのはないの。3泊4日とか、4泊5日とか。
- 生徒E 飛行機には乗りたいです。
- 市長 飛行機ね。
- 教育長 沖縄は。

○生徒E 私は沖縄には小さいときに1度行ったことあるのですが、海がきれいで、水族館や有名なお城がたくさんあるので、沖縄にも行ってみたいと思います。

○市長 1年生には期待があるけれども、2年生には期待がない。行き先は1年生のときに決まっているの。

○教育長 京都。

○市長 現1年生が京都で、2年生は福島だろう。福島もよいところだよ。白虎隊であったり。だから、農作業だけではだめだけれども、周りの景色もよいから。2年生は3年生になるのだけれども、学校は楽しいでしょう。楽しい人は手を挙げて。

(拍手)

○海野委員 さっき出ていますけれども、ロッカー、どういうロッカーが欲しいですか。どういうロッカーが学校にあったらいいかなって。

○生徒C 写真を見てもわかるかもしれないのですが、本当に教科書とか、A4サイズのものが縦にぎりぎり入るくらいの大きさなので、実際はあそこに教科書とかファイル類を入れると、ほとんどほかの荷物が入らずに、バッグは床に置く生徒がほとんどです。教室の端のほうに10個ぐらいロッカーが空のまま余っているところもあるので、ロッカーごとかえるのだったら、バッグも教科書も入る大きさのロッカーにしてほしいなと思っています。

○酒井委員 アメリカみたい。

○市長 2年生は期待がないからね。大体1年かかっちゃうから。

○生徒G 先輩が言っていたのと同じで、少し大き目のロッカーがよいなと思います。

○教育長 ほかの学校は少し大きいところもあったりするけれども、海西中学校は、この間、見に行ったら、下足箱のちょっと大き目な感じで、ロッカーとしてはちょっと小さい。

○市長 直すのではなくて、かえてしまったら。鍵つきとか、あるいは別のところに、フロアごとにつくれないかな。

○松樹委員 取りかえてしまったほうが早いですね。

○教育長 廊下は消防法で避難経路になるので、可能な大きさのものの設置すると教室の中も広がる。

○市長 だけれども、教育委員会だって、新しい人はちゃんとロッカールームができてい  
るのだよ、はっきり言って。市役所のロッカーなんて、みんな地下だよ。人によってはロ

ッカーなんか要らないという人もいるし、ヘルメットとか、長靴を保管しているので、地震を想定するとフロアごとに設置することを相談しています。そのほうが自分の荷物もとりに行きやすいし。作業をする人たちは作業着とかいろいろあるので以下のロッカーも必要ですけども、普通の事務職なんかはフロアごとでよいのではないかなという計画をしていますけれども、学校もそうだろうね。どこかで計画をつくって、消防法の関係もあるけれども、ロッカーは1つずつあったほうがいいのかもしいかな。1つずつロッカーがあったほうがいいのかよ、大きいものでね。ほかに聞きたいことはありますか。

○平井委員 聞きたいことではないのですが、私は皆さんの発表を聞いて、教育委員会として反省しなきゃいけないなと思ったところです。それは教育大綱を平成27年度から今年度まで立てた中に、安全安心な環境と新たな学校施設への取組という項目があったのです。そういう中で、果たして私たちがそういうところまでやってきたのかな。今回の言葉を聞いて、子どもたちが居心地のよい中で生活ができていたのだろうか。本当に1日の大半を過ごす教室の中でこのような不便さをかけてきたことに対して、ちょっと私としては申しわけなかったかな、もっと早くに手をつけられる部分もあったのではないかなと反省をするところがあります。学校生活をともにしてきた者としては、やはり安心して、きれいな環境の中で生活をさせて、次のところに飛ばたいってほしいなという思いがありますので、今からでもぜひできるところは環境を整えていったらよいなと思し、早目にそういった環境の中で、残りは少ないですけども、過ごしてほしいな。皆さんが今日提案してくださったことが今後の新入生や、また、1年生、2年生にもつながっていきますので、卒業生にもその思いは伝わっていくと思うので、今日発表してくださったことを心に重く受けとめます。ありがとうございました。

○酒井委員 私も感想となりますが、ビナスポとか、こういう公共施設に来て、子どもたちはどう思うのかなと思います。トイレとか、入り口とかも非常にきれいです。しかしながら中学校の写真を見ると、差を感じてしまって、学校もぜひきれいになるとよいなと強く思いました。2年生の方たち、すみません。まだ間に合いそうにないのですけれども、少しずつしか進まないかもしれませんが、皆さん、一生懸命やったださっているなと教育委員会の中に入って感じていますので、少し気長に待っていてください。

○市長 ロッカーを全部新しくしたらどれぐらいかかってしまうとか。中学生の机もですね。周りを見ると体格が良い生徒がいっぱいいるのに、机の中に挟まっているような現状でありますから、全校調査していただいて、早急にできることは1歩ずつ計画性を持って

やりましょう。では、皆さんのほうからありますか。言い足りないこととか、ここは言っておきたいこととか。

○**教育長** 市長、生徒会長に海西中学校のよいところを言ってもらいましょう。お願いします。

○**生徒 A** 海西中学校のいいところは、挨拶、時間、思いやり、約束の4つを生徒全員が守っていることです。これは海西中学校の心と言われていて、生徒が心にとめて、これは当たり前のことなのですけれども、やはりできないと、人間、社会の中でコミュニケーションがとれなくなってしまうので大切にしています。

(拍手)

○**市長** それでは、今日は、海西中学校の皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。皆さん、拍手をお願いします。

(拍手)

○**市長** 次に、協議事項(5)「その他」について事務局から何かありますか。よろしいですか。皆さんから何かありますか。ないようでしたら、これで終了します。司会を教育部長をお願いします。

○**教育部長** ありがとうございました。1点だけ事務連絡がございます。今年度の総合教育会議は今回で最終回となります。次回は4月14日(日)午前10時から市役所本庁401会議室で開催をいたします。多数の皆様の参加をお待ちしております。それでは、以上をもちまして、第4回海老名市総合教育会議は閉会となります。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

(拍手)